

標 題： A Mediterranean dietary style influences TNF-alpha and VCAM-1 coronary blood levels in unstable angina patience
不安定狭心症の患者で地中海食事スタイルは
TNA- および VCAM-1 の冠状血液値に影響する

著 者： M. S.-Martinez, et al. (スペイン ナバラ大学 疫学部)

掲 載 誌： Eur. J. Nutr. 44: 348-354 (2005)

要 旨：

背 景： 地中海食事パターンは冠状動脈性心疾患のリスク低下、それに酸化ストレスの低下と関連しているが、食品摂取と特定部位での炎症性メディエーター生成の間に相互作用の可能性を示す研究はない。

研究の目的： 地中海食事摂取と冠状血管における炎症関連分子生成との間で、関連を評価すること。

方 法： 不安定狭心症の患者 24 人で認証された食事頻度アンケートから 8 食事成分の 5 段階評点だしてから合計して、以前に報告した地中海食事スコアをコンピューターで計算した。
腫瘍壊死因子(TNF-)および血管細胞接着分子(VCAM-1)の濃度を冠状静脈洞血液で測定した。

結 果： バイオマーカーは両方とも地中海食事スコアと逆関連をした。
VCAM-1 と地中海食事スコアとの間の関連は、 -35.1ng/ml (95%係数範囲 $-63.5 \sim -6.7$)の調整 係数を有した。TNF- を独立遠隔として用いた調整 係数は、 -41.6pg/ml (95%CI $-76.2 \sim -7.1$)であった。
冠状静脈血液の TNF- および VCAM-1 の血清値と、オリーブ油単品の摂取は有意な逆関連を示し、そしてオリーブ油を除いた地中海食事スコアも逆関連をした。

結 論： 地中海食事パターンの順守は、炎症性メディエーターの冠状動脈性壁生成を防止する可能性がある。
この発見は、地中海食事と関連する低い冠状動脈性リスクを理解するための新規のメカニズム説明を提示できる。

キーワード： 冠状動脈性疾患、アテローム性動脈硬化、食 事、狭心症、心臓血管系疾患
